



隔月1日発行

JULY 2009 Vol.61

朝日大学
編集・発行／朝日大学企画課
http://www.asahi-u.ac.jp/

朝日大学は、国際未来社会を切り開く社会性と創造性、そして、人類普遍の人間的知性に富む人間の育成をめざします。



2010入学者選抜方法決まる

2010年度朝日大学学生募集要項が決定された。

昨年度に引き続き各学部の入試制度が改革され、

「選ばれる大学、魅力ある大学」づくりがより一層進むこととなる。

2 010年度歯学部の入学者選抜方法では、「AO入試Ⅱ期」及び「大学入試センター試験利用入試Ⅱ期」を新たに加え、歯科医師を目指す志願者に受験機会を増やす「入試制度」の改革を行った。

また、法学部・経営学部では、これまで高等学校における学業成績に応じ奨学金が

給付(減免方式)されていた「指定校推薦入試」を「奨学金給付入試」へと名称を改め、今日におけるきびしい経済情勢に対応することで、だれもが同じスタートラインに立てるよう改善をはかった。

教育の質の向上、少子高齢化社会の到来など、高等教育をとりまく環境は依然と

CONTENTS

入学者選抜方法決まる	01
エコプロジェクトがスタート、他	02
海外の歯学部学生を受け入れ、他	03
岐阜法教育研究会を設立、他	04
教育懇談会を開催、他	05
体育会剣道部男女団体準優勝、他	06
ハンドボールリーグ優勝、他	07
2008年度事業報告及び決算	08

してきびしい状況にはあるが、教職員全員がステークホルダーである高校生や保護者、あるいは地域社会の方々から「信頼される大学づくり」に邁進する必要があることは言うまでもない。

2010年度 朝日大学入学試験概要

◆法学部・経営学部

入試区分		法学部 法学科	経営学部			試験日
			経営学科	情報管理学科	ビジネス企画学科	
推 薦	奨学金給付	20名	30名	15名	20名	10月31日(土)
	スポーツⅠ期	35名	50名	25名	35名	A日程：11月1日(日) B日程：11月2日(月)
	スポーツⅡ期					3月 6日(土)
	一般Ⅰ期					11月 1日(日)
	一般Ⅱ期					11月29日(日)
A O	資格取得	5名	5名	5名	5名	第1次選考(書類審査) 第2次選考(面接:個別に通知)
	社会・文化活動等					個別に通知
外国人留学生(4月)		若干名	若干名	若干名	若干名	11月 1日(日)
帰国生徒						1月28日(木)
一 般	I 期	40名	65名	30名	40名	2月20日(土)
	II 期	10名	10名	10名	10名	3月 3日(水)
	III 期	10名	10名	10名	10名	3月 3日(水)
大学入試 センター試験 利用	I 期	10名	10名	10名	10名	本学独自の 個別試験は 課さない。
	II 期	10名	10名	10名	10名	
	III 期	10名	10名	10名	10名	

◆歯学部

入試区分		募集 人員	試験日
A O	I 期	30名	1次：10月 3日(土) 2次：10月17日(土)
	II 期	5名	1次：12月19日(土) 2次：12月20日(日)
指 定 校 推 薦		25名	10月31日(土)
一 般 推 薦			11月 1日(日)
外 国 人 留 学 生		若干名	
帰 国 生 徒		若干名	11月 1日(日)
一 般	I 期	60名	1月28日(木)
	II 期	5名	3月 3日(水)
大学入試 センター試験 利用	I 期	3名	本学個 別試験 2月20日(土)
	II 期		3月15日(月)

Hot Topics

エコプロジェクトがスタート

朝日大学エコキャンパスプロジェクト Vol.1

「クールビズ(COOL BIZ)・ウォームビズ(WARM BIZ)宣言」

朝日大学では、「朝日大学エコキャンパスプロジェクト Vol.1」として、「クールビズ(COOL BIZ)・ウォームビズ(WARM BIZ)」をここに宣言いたします。今後も、本学では、学生・教職員が地域社会の皆様方と共に、身近な「環境問題」からスタートし、国際未来社会に向け「地球温暖化防止対策」に積極的に取り組んでいくこととします。

クールビズ(COOL BIZ)・ウォームビズ(WARM BIZ)宣言

- ◆6月～9月までの間、教職員は高等教育機関の従事者としてふさわしいカジュアルな服装（ノーネクタイなど）で、また、冬期にはセーターやカーディガンを着用し、教育研究等の業務（会議や行事などを含む。）に従事。
地球にやさしい活動を通じてCO₂削減に努めます。
- ◆冷房期間中の間、講義室や研究室・事務室等の室内温度を28℃に設定。
暖房期間中の間、講義室や研究室・事務室等の室内温度を20℃に設定。
地球にやさしい活動を通じてCO₂の削減に努めます。

建学の精神

「国際未来社会を切り開く社会性と創造性、そして、人類普遍の人間的知性に富む人間を育成すること」を「建学の精神」とする本学では、「社会性について」で、「人類共存の理念は、今や地球の資源・環境問題をはじめ高齢化社会に伴う労働問題、先進国の国際経済問題、発展途上国の社会経済問題など、解決すべき諸問題に直面している。これらの課題と取り組み、人類の繁栄と幸福を推進するため、国際性と社会性に富む人間、和を重んずる心豊かな人間を育成する。」とし、全学をあげて「環境問題」に取り組むことを標榜しています。

これまでの「環境問題」への取り組み



- ◆地域社会のクリーン清掃活動へのボランティア参加
- ◆エコバッグの製作と配付、「環境問題」の特別講義の開催
- ◆廊下・トイレの全照明、トイレ洗面台の蛇口の「人感センサー型」への切り替え

2009年5月20日

朝日大学学長 大友 克之

OPEN CAMPUS

お問い合わせ

朝日大学入試課

0120-058-327

〒501-0296 岐阜県瑞穂市穂積1851
TEL.058-329-1088 FAX.058-329-1089
E-mail : nyuusi@alice.asahi-u.ac.jp

ご家族やご友人と一緒に参加も大歓迎です



歯学部

歯科医師を体験できる1日

実際の診療環境を再現したシミュレーション実習室で、患者型シミュレーターの歯を削るなどの体験ができる実習を組み合わせた施設見学が充実。実際の講義を体験したり、自分に合った入試が分かる入試説明、歯科医師の魅力解説、個別相談も実施します。歯学部のことがよく分かるプログラムです。

7月30日(木)・8月20日(木)・9月12日(土)／10時～15時

法学部・経営学部

スポーツと就職に強い秘密を公開

スポーツ活動、就職支援、充実の独自奨学金制度を詳しく説明します。キャンパス見学や法学部・経営学部の授業も体験できます。フレンチシェフで学食料理長のランチバイキングも大好評。あなたの参加をお待ちしています。

8月1日(土)・8月22日(土)／10時～15時



岐阜県地球環境課職員による環境講座

環境講座を開催

法学部で身近なエコ活動を学ぶ

穂 穂キャンパス6号館講義室において、岐阜県地球環境課職員を講師に招いた「法学部環境講座」が開催された。同講座には、法学部の学生や教職員ら100名が出席し、エコ活動への理解を深めた。

開会にあたり、大友克之学長は「キャンパス内や学外でも環境問題を常に意識し、みんなで地球温暖化防止に協力しよう。」との挨拶。講師を務めた樋田幸浩氏は「身近にできる地球温暖化対策」をテーマに、昨今話題となっているマイバック活用などの取り組みや、環境問題への姿勢を解説した。

ぎふエコ宣言

講義終了後には、岐阜県が進める環境対策「ぎふエコ宣言」を読み上げ、出席者全員でエコ活動推進を誓った。また、出席者には、法学部卒業生たちが製作した「エコバッグ」が配付され、環境問題への意識がより一層深まった環境講座となった。

School Events

海外の歯学部学生を受け入れ 相互交流を深める

朝 日大大学と学生・教員の相互交流を行っている海外の歯学部学生たちが短期海外研修のため相次いで来学した。

一行は、穂積キャンパスで藤原周歯学部国際交流委員長から本学の組織・歯学教育の内容等ガイダンスを受け、附属病

	アメリカ	カリフォルニア大学 ロサンゼルス校	12名
	アメリカ	テキサス大学 サンアントニオ校	12名
	アメリカ	アラバマ大学 バーミングハム校	12名
	フィンランド	トゥルク大学	4名

院やPDI岐阜歯科診療所など医療施設の見学やシミュレーション実習を体験したりと本学で充実した海外研修のプログラムに取り組んだ。

歯科医療は今や国境を越える

研修終了後、学生たちは岐阜市内のホテルで開かれた修了式に臨み、大友克之学長、田村康夫歯学部長から修了証書が授与された。その後のパーティーでは本学から各大学への海外研修に参加了学生や関係教職員との交流を深めると



シミュレーション実習を体験

共に、それぞれが再会を約束。翌日京都観光などを楽しんだ一行は、日本文化を満喫し母国への帰国の途に着いた。

また、今回アラバマ大学の引率教員による特別講義が行われ、本学歯学部学生たちは真剣なまなざしで受講していた。

他大学歯学部の取り組みを学ぶ 歯学部FD研修会を開催

歯 学部FD委員会主催による「FD研修会」は、100名を超える教育職員が参加し、本学穂積キャンパス1号館講義室で開催された。

魅力ある授業

本研修会は、授業方法等の改善と向上を通じて「魅力ある授業」を学生に提供することを目的に昨年度から開催されている。今回の研修会では、他大学のFD推進活動の取り組みを学び、本学歯学部におけるFD活動の新たな展開を目指すことで、近年の歯科医師国家試験において一定の好成績を維持している昭和大学の宮崎隆歯学部長、東京歯科大学の金子謙学長、福岡歯科大学の北村憲司学長を外部講師に招き、歯学教育の取り組み、教育技法と教育評価・国家試験への

取り組みなどについて研修を行った。

講演後会場では、他大学の先進的・効果的な事例を学ぼうと質疑応答が活発に行われ、参加者は真剣なまなざしでFD研修会に取り組んでいた。

FD [Faculty Development]
教員の教育能力を高めるための実践的手法



東京歯科大学金子学長による講演

歯学部生涯研修を積極的に展開

本 学歯学部及び明海大学歯学部が共同で実施している歯科医師を対象とした生涯研修事業(CE)は、本年で11年目を迎えた。

2008年度までの受講者数は、2,700名を数え、全国各地で地域医療の中心的な役割を担う歯科医師として活躍している。

また、近年は海外からの受講生も迎えるなど、CEは国際的な医療貢献活動へと

発展している。

UCLAとのジョイント

本年度は、アメリカのカリフォルニア大学ロサンゼルス校(UCLA)歯学部とのジョイントプログラムを含む13のカテゴリー35コースの研修を予定しており、今後も本事業を通じて、日本の臨床歯科医学の向上や海外との交流に貢献していくこととなる。

瑞宝中綬章を受賞

平 成21年春の叙勲において、天沼昭名誉教授(元生物学教授)、並河勇名誉教授(元口腔細菌学講座教授)、吉田定宏名誉教授(元小児歯科学講座教授)の3氏が「瑞宝中綬章」を受章した。

この度の受章は、長年にわたる朝日大学での「教育研究功労」が高く評価されたものである。



天沼 昭 名誉教授



並河 勇 名誉教授



吉田 定宏 名誉教授

藍綬褒章を受賞

本 学法医学部の糀山錚吾教授(労働法)が平成21年春の褒章において、「藍綬褒章」を受章した。



糀山 錚吾 教授

この度の受賞は、岐阜県労働委員会会長など長年にわたる労働行政に対する功績によるものである。

CE [Continuing Dental Education]

臨床歯科医学向上のための生涯を通じた研修活動

詳細は URL : <http://m-a-univ-ce.com>
E-mail : info@m-a-univ-ce.com

Special Report

岐阜法教育研究会を設立

朝 日大学は、岐阜県内唯一の法学部を有しており、教育研究を通じてこれまででも「法教育」の普及に積極的に取り組んできた。

我が国では裁判員制度の施行により、これからの中等教育現場において「法教育」の重要性がより一層増すこととなる。このことから、本学法学部、岐阜県の弁護士、岐阜大学教育学部の有識者らによる「岐阜

県弁護士会、岐阜大学と連携法教育研究会」が設立された。

法教育授業の実践

同研究会では、今後、本学と岐阜県弁護士会、岐阜大学、小・中・高等学校の教員や報道機関などとの連携を深め、「ジュニアロースクール」の開設や法教育の教材提供などにより法教育授業の実践を目指すこととなる。



岐阜法教育研究会が設立された

フロンティアセミナーを開催

大垣共立銀行との学術協力

本 学1号館講義室において、大垣共立銀行の本巣エリア5店が主催する「第16回フロンティアセミナー」が開催された。

同セミナーには、岐阜市、瑞穂市、本巣市などから100名の参加があり、本学経営学部の鈴木治教授による「デジタル社会とくらし」と題した講演を聴講した。

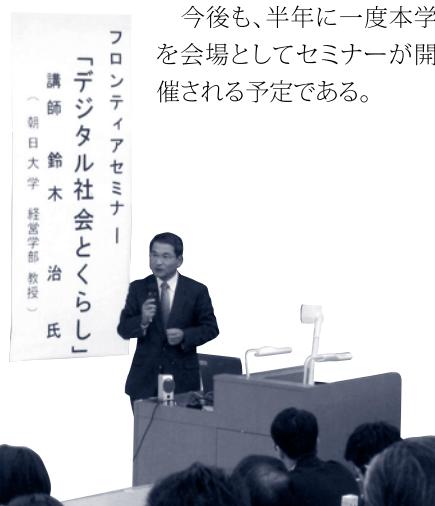
講演では、デジタル革命の解説や、未来のデジタル社会について、鈴木教授から「くらし」と直接関わる身近な話題を取り上げられ、受講者たちは真剣なまなざしで聞き入っていた。

知的財産の還元

フロンティアセミナーは、大垣共立銀行が、同行の進める地域活性化事業の一

環として実施している催事。朝日大学では、「大学の知的財産」を地域社会に還元できればと、第1回目の開催からセミナーの講師を務めると共に講義室を会場として提供し、協賛している。

今後も、半年に一度本学を会場としてセミナーが開催される予定である。



経営学部鈴木治教授が講師を務める

学術交流協定を締結

岐阜県弁護士会と

学 術交流協定が朝日大学と岐阜県弁護士会との間で締結された。

岐阜県弁護士会(岐阜市)で6月2日(火)に、本学から大友克之学長、杉島正秋法学部長、大野正博教授(法学部)が、また、弁護士会からは、鷺見和人会長、武藤玲央奈法教育委員長が出席し学術交流協定の調印式が行われた。

今後両者が連携・協力し、岐阜県の法教育推進にかかる事業、判例研究の共同研究事業などが積極的に展開されることとなる。



鷺見会長と大友学長が握手を交わす

江西省人民政府外事僕務弁公室一行 本学を表敬訪問

岐 阜県と友好提携している中国江西省から、人民政府外事僕務弁公室一行が、交流促進のため、国際交流活動の盛んな本学を訪問した。

一行は、大友克之学長への表敬訪問の中で、本学の歴史ある国際交流活動の説明に、熱心に耳を傾けていた。また、本学と北京大学口腔医学院との友好交流を継ったDVDを鑑賞し、本学関係者と国際交流に関する意見交換を行った。

その後、キャンパス内を散策し、留学生別科日本語研修課程の講義室を見学、別科生たちを激励し本学を後にした。



Students

教育懇談会を開催 建学の精神に基づく教育方針を説明

法 学部・経営学部の教育懇談会が本学穂積キャンパス6号館大講義室で開催された。

両学部の懇談会では、学長・学部長から「建学の精神」に基づく教育方針の説明を交えた挨拶があり、引き続き学部・学科の特色、学生生活全般に関わる事項、入学時から4年生に至るまで継続的に行われる就職支援活動などの説明がなされ、活発な質疑応答を経て全体の懇談会を終了した。

その後の「個別懇談」では、指導教員と父母とが個別ブースで、学生のキャンパス内での様子や学業成績、就職活動状況



などについて個別面談を行い、実り多い教育懇談会となった。

大学、学生、父母が共通認識

また、「未来の歯科医師」育成に取り組む歯学部でも今秋に、学生、父母及び大学の三者が共通の理解と認識をもち「将来の歯科医師」をめざすための「教育懇談会、三者面談」の開催が予定(6年生は5月17日に開催済み)されている。

学生部ピアサポート 親身なサポートを展開

朝 日大学では、本年度から学生による学生のための相談として、学生部ピアセンターが相談業務を開始した。

学生部ピアサポートは、穂積キャンパス内の学生ホールや講義室を会場とし、法学部及び経営学部の履修登録期間など延べ6日間にわたり行われた。期間中には、新入生の時間割の組み方、履修相談など授業に関する事から、友達づくりのアドバイスまで、各種相談に学生サポーターが親身になって答えていた。

学生部ピアサポートは今後、隔週水曜日の昼休み時間帯に学生相談室で行われる。

常に現場で 学んでほしい 國澤 英雄

経営学部経営学科長

ト ヨタ車体(株)での勤務経験が私の研究の原点です。とくに経営企画室での10年間では、全社の品質管理(方針管理、SQC、信頼性、QCサークルなど)、ISO9000、トヨタ生産方式、TPMの推進事務局として全社活動の推進・支援に取り組んできました。

「トヨタってどんな会社ですか?」とよく聞かれます。私はトヨタの原動力は「一人ひとりの従業員の高い課題解決能力」にあると思います。そんな経験から、私が指導する「経営管理・生産管理」研究室では、実践力向上を目指し、自動車会社などの企業実習を積極的に行い「品質管理」や「トヨタ生産方式」などの最先端の管理知識を身に着けることを目標にしています。「モノ作り日本」を代表する研究だと自負しています。



くにさわ・ひでお Kunisawa Hideo
1947年生まれ 高知県出身
山梨大学工学部卒 同大学院修士課程修了、東京工業大学博士課程修了、工学博士、デミング賞委員会委員。
1971年トヨタ車体(株)に入社。
第1技術部に15年間在籍、自動車用塗料・樹脂の開発に携わった。その後人事部に3年、経営企画室に10年勤務。2000年朝日大学に赴任。02年から現職。



企業実習でお世話になった方々との記念写真

太平洋工業(株)で学ぶ

大 学院経営学研究科の2名の学生が、同研究科國澤英雄教授の指導の下、大垣市に本社を置く太平洋工業(株)で6月に「トヨタ生産方式を使った工程の合理化」の研究課題に取り組んだ。

企業実習は、同社東大垣工場の自動車用部品プレス・溶接工程にて、瀬古吉壽一第一事業部部長をはじめ同社社員の指導を仰ぎ、「4工程を受け持つ作業者と部品供給者の作業時間の短縮」をテーマに行われ、「30%近い効率化を達成」という最高の研究成果を得ることが

できた。

実り多き企業実習

成果発表会では、短期間ですばらしい研究成果を生みだした本学経営学研究科における指導内容や研究に取り組む姿勢に関心が集まり、本学大学院生にとって実り多き「企業実習」となった。

太平洋工業株式会社

人と未来をつなぐ創造企業

1930年創業。国内外で自動車部品・家電等の製造・販売事業を展開。タイヤバルブは国内シェア95%超を誇る。

Sports

西日本インカレ

体育会剣道部男女団体準優勝

優秀選手賞に前本選手(法4)と山添選手(法3)

福 岡市民体育館で5月23・24日に開催された、「第54回西日本学生剣道大会」並びに「第24回西日本女子学生剣道大会」において、本学体育会剣道部

日本卓球リーグ サンライズジムで開催

朝 日大学体育会卓球部(女子)は、2007年度から日本卓球リーグに加盟、1部リーグで大学チームとして活躍している。

このたび2009年度前期日本卓球リーグ東京大会のホームマッチゲームを、本学サンライズジムにおいて同リーグ所属で地元岐阜の強豪チーム「十六銀行」を迎え、6月9日に開催した。

試合当日は、国内トップレベルの対戦をこの目で見ようと地元小中学生をはじめ数多くのサポーター(観戦者)が訪れ、ポイントが入るたびに感嘆の声やチーム応援の歓声で大いに盛り上がり、試合会場は終始熱気につつまれていた。

試合は、実力に勝る十六銀行が勝利。本学卓球部(女子)は、その後のリーグ戦で2勝をあげリーグ6位、後期リーグも1部で戦うことが決まった。

また、日本リーグ初参戦となった男子チームは、2部リーグにおいて経験豊富な実業団チームを相手にみごと「優勝」に輝き、1部リーグへの昇格が決定した。後期日本リーグから男女共に1部リーグで熱い戦いを繰り広げることとなる。



サンライズジムでホームマッチゲームを開催

が創部8年目で男女共に初の準優勝を果たした。

新型インフルエンザの影響で、参加校が減少したとはいものの、本学は厳しい戦いの中、順当に勝ち進み決勝戦へ進出。

男女とも全国トップクラスの強豪鹿屋体育大学と対戦し、惜しくも敗れたが、朝日大学の気迫あふれる正攻法の剣風は、大会関係者から高い評価を得ていた。

また、出場選手の中から男女各5名に贈られる優秀選手賞に、本学の前本幸美(法4年)と山添匠(法3年)が選ばれた。

今後の活躍が楽しみである。



優秀選手賞に選ばれた前本幸美選手(法4)と山添匠選手(法3)



ぎふ清流国体に向けて 充実したスポーツ施設を視察

岐 阜県議会教育警察委員会による視察が本学で行われた。教育警察委員会とは、県議会常任委員会の一つで、学校教育や社会教育に関する事、生活の安全を守る仕事について審査する委員会。

穂積キャンパス内の大会議室では、平岩正光委員長並びに竹内宏副学長の挨拶に引き続き、DVDによる大学概要の説明が行われた。

充実したスポーツ施設

その後、視察団は穂積キャンパスの内外に整備されたフェンシング場、ホッケー場、野球場など充実したスポーツ施設の見学を行った。本学では、2012年に開催される「ぎふ清流国体」を見すえ、岐阜県

や地域社会との連携をはかり教育研究、選手強化や施設整備など積極的に取り組んでいる。

視察を終えた出席者からは、「どれも素晴らしいスポーツ施設である。朝日大学の取り組みに感謝する」との声が聞かれた。



岐阜県議会教育警察委員会が本学を視察

フェンシング ユニバーシアード代表に!

東 京厚生年金体育館で4月18・19日に開催された「ユニバーシアード代表選考会」で、本学体育会フェンシング部の福田美香子(ビジネス企画2年)は、女子エペで準優勝の成績を収め、みごと

ユニバーシアード代表の座を射止めた。

「第25回ユニバーシアード競技大会」は、今夏にセルビア国(ベオグラード)で開催される。

めざせロンドンオリンピックを!

Sports

ハンドボール リーグ優勝 最短で1部へ昇格

2 008年4月に東海リーグへ加入(4部)し快進撃を続けてきたBlue Hunters(体育会ハンドボール部)が、みごとリーグ優勝(2部リーグ:6勝1分)を成し遂げた。

昨春、元全日本代表の下川真良氏を監



リーグ優勝をはたしたBlue Hunters

督に迎えたチームは、実力伯仲の2部リーグで相手チームを次々と撃破し、5月31日(日)名古屋市体育館で開催されたリーグ入れ替え戦に望み1部リーグ6位の愛知文理大学と対戦。Blue Huntersは圧倒的な強さを發揮、最短での1部リ

グ昇格を決め、小川慶(ビジネス2年)が優秀選手に選ばれた。

今秋からは、1部リーグ強豪チームとの対戦が待ちかまえているが、目標はあくまでも「東海1部リーグ制覇」に設定し、部員たちは、下川監督のもと日々練習に励んでいる。若きBlue Huntersに熱きご声援を。

ホッケー 大学王座 決定戦 3位入賞

体 育会ホッケー部は、「第28回全日

本大学ホッケー王座決定戦」においてみごと「第3位入賞」をはたした。

東海第1代表として参戦したホッケー部は、初戦・第2戦に勝利し、創部以来初となるベスト4進出を決めた。準決勝では、第1シードの強豪チーム立命館大学と互角に戦い、惜しくもPS戦で敗れたものの、価値ある「3位入賞」を手にした。



「ベスト4」進出を決めた山梨学院大学との第2戦

柔道 東海学生を連覇

愛 知県武道館で5月17日(日)に開催された「第16回東海学生女子柔

道優勝大会」に出場した本学体育会柔道部(女子)が、昨年の初優勝(3人制)に引き続き2連覇を成し遂げた。

5人制(先鋒・次鋒・中堅・副将・大将)

の本大会では、決勝戦で愛知産業大学を果敢に攻め、みごと勝利し東海学生柔道の頂点に立った。いよいよ時代は「朝日の柔道」の幕開けを迎えることとなる。

自転車競技 西日本選手権で優勝ラッシュ

修善寺カップで優勝し欧州遠征に参戦

本 学体育会自転車競技部は、京都向日町競輪場で5月6日(水)に開催された「第29回西日本学生選手権」に登場し、みごと4km団体追い抜き競走「6連覇」、チームスプリント「2連覇」を成し遂げた。



4km団体追い抜き競走で堂々の6連覇達成

全10種目で争われた同大会では、スプリントやケイリンなどの5種目でも優勝、入賞総数は18を数え、まさに入賞ラッシュとなり、大いに大会を盛り上げていた。

また、5月16日(土)・17日(日)に日本CSCで開催された「第11回修善寺カップ女子トラック・ロード大会」では、5種目の総合成績で優勝が争われ、明珍裕子(ビジネス企画2年)が第11代チャンピオンの栄冠に輝いた。この結果を受け、明珍はフランスのクラブチームと共に7月に欧州で開催されるロードレース(ツール・ド・ブルターニュ、ツール・ド・リムザン)に参戦することとなった。

さらに、防府競輪場(山口県)で6月6日(土)・7日(日)に開催された「第78回全日



本場、欧州ロードレース参戦の明珍裕子選手(ビ2年)

本アマチュア選手権」では、4km団体追い抜き競走で優勝・準優勝、1kmタイムトライアルで3位入賞と「アマチュア自転車競技最高峰」の大会でも部員たちは堂々の活躍をみせた。

Statement of Accounts

2008年度 事業報告及び決算

2 008年度学校法人朝日大学事業報告及び決算が、5月21日(木)開催の理事会で承認され、同日開催の評議員会に意見を求めたところ、全会一致で承認された。

事業報告及び決算は以下のとおり。

事業報告

①学生募集計画

2009年度学生募集状況については、文系学部は前年度実績を上回ることができた。歯学部については、僅かに募集定員を下回った。全国的に大幅な歯学部志願者数減少が続く中、来年度も質の高い学生の確保に向け、全力を挙げて努めていく。留学生別科では、秋季学生募集に力を入れ、学生確保を目指す。

2009年度から3年制へ移行する歯科衛生士専門学校は、「新しい歯科衛生士」づくりに力を入れていく。

今後ともオープンキャンパス、ホームページなどを充実し、本学の魅力を全国へ発信するとともに地道に教育の質の向上に努め、学生確保に全力を尽くす。

②学生教育の充実

学生教育の充実に関し、全学に関する事項では、教育の質の向上を図るために、学生参加型授業の実践、初年次教育の充実に努めるとともに、教職員の資質向上のためFD及びSD活動の強化を図ってきた。国際社会で活躍できる人材育成を目的とする学生の短期海外研修については、進取の気概に富んだ学生を派遣した。

学生アメニティ向上のため、施設・設備の整備は、計画的に継続していく。

法・経営学部に関しては、就職率向上のため、基礎学力の

向上、資格取得、インターンシップの活用などに全力を挙げた結果、前年度を上回る就職率を確保することができた。また、体育会は、卓球部女子の初のインカレ制覇などすべての競技種目において輝かしい成績を収めることができた。

歯学部では、第102回歯科医師国家試験は、目標未達だったが国家試験対策にさらに検討を加え、魅力ある歯学部づくりを目指していく。

CE事業は、全国5都市で27のコースを開催した。

附属病院、PDI岐阜歯科診療所及び附属村上記念病院は、地域の医療拠点としての役割を果たしつつ、学生の臨床実習教育の強化に務めた。

歯科衛生士専門学校は、新しい制度の下で「高いスキルを持つ、新しい歯科衛生士」の育成を目指していく。

③地域貢献

本学の有する知的資産の還元のため、9月に瑞穂市で公開講座を行い、延べ900人の受講者を集めた。市民相談室では、法律問題、経営相談、健康問題などに関する市民からの相談に、誠実に対応した。

学生のボランティア活動による地域貢献も継続して行った。

④認証評価の着手

学校教育法に基づく認証評価については、6月末日までに自己評価報告書を日本高等教育評価機構へ提出、10月26日～28日の間、実地調査を受審する。これに備え、認証評価プロジェクトチームを立ち上げ、報告書等作成作業を進めた。

⑤安定した経営基盤

2008年度は、世界的不況に見舞われ、混沌とした経済、金

◆◆◆ 第38期決算報告書(2008年度) ◆◆◆

資金収支計算書

単位:円

収入の部		支出の部	
学生生徒等納付金収入	5,451,209,000	人件費支出	6,984,723,058
手数料収入	39,317,420	教育研究経費支出	5,379,785,512
寄附金収入	19,450,000	教育研究経費支出	1,961,673,337
補助金収入	327,481,974	医療経費支出	3,418,112,175
資産運用収入	3,296,002,520	管理経費支出	719,846,542
資産売却収入	11,138,438,767	施設関係支出	804,546,365
事業収入	253,231,115	設備関係支出	510,580,848
医療収入	8,265,418,458	資産運用支出	23,262,171,016
雑収入	121,632,576	その他の支出	8,564,492,170
前受金収入	864,379,000		
その他収入	16,843,117,154		
資金収入調整勘定	△2,060,148,781	資金支出調整勘定	△919,589,202
前年度繰越支払資金	9,425,629,527	次年度繰越支払資金	8,678,602,421
収入の部合計	53,985,158,730	支出の部合計	53,985,158,730

消費収支計算書

単位:円

消費収入の部		消費支出の部	
学生生徒等納付金	5,451,209,000	人件費	7,118,973,231
手数料	39,317,420	教育研究経費	6,336,743,292
寄附金	36,635,796	教育研究経費	2,730,263,578
補助金	327,481,974	医療経費	3,606,479,714
資産運用収入	3,296,002,520	管理経費	728,698,687
資産売却差額	728,441,339	資産処分差額	522,619,071
事業収入	253,591,615	徴収不能額	20,334,500
医療収入	8,265,418,458	徴収不能引当金繰入額	17,119,363
雑収入	121,632,576		
帰属収入合計	18,519,730,698		
基本金組入額合計	△8,806,890,615		
消費収入の部合計	9,712,840,083	消費支出の部合計	14,744,488,144
		当年度消費収入超過額	△5,031,648,061
		前年度繰越消費収入超過額	44,875,269,069
		基本金取崩額	145,530,336
		翌年度繰越消費収入超過額	39,989,151,344

貸借対照表

2009年3月31日 単位:円

資産の部		負債の部	
固定資産	125,177,577,403	固定負債	4,111,928,536
有形固定資産	24,942,162,893	退職給与引当金	4,111,928,536
土地	11,438,605,501	流動負債	1,998,053,599
建物	8,036,453,410	未払金	950,715,307
構築物	611,249,712	前受金	876,959,000
教育研究用機器備品	1,552,843,101	預り金	170,379,292
その他の機器備品	52,249,281	負債の部合計	6,109,982,135
図書	3,204,773,732		
その他	45,988,156		
その他の固定資産	100,235,414,510		
有価証券	44,047,928,771		
収益事業元入金	4,277,020,159		
退職給与引当特定資産	4,111,928,536		
第2号基本金引当特定資産	8,108,000,000		
第3号基本金引当特定資産	39,607,500,000		
その他	83,037,044		
流動資産	9,994,940,145		
現金預金	8,678,602,421		
未収入金	1,145,540,906		
貯蔵品	106,086,070		
短期貸付金	5,510,216		
その他	59,200,532		
資産の部合計	135,172,517,548		
基金の部		消費収支差額の部	
第1号基本金	40,357,884,069	翌年度繰越消費収入超過額	39,989,151,344
第2号基本金	8,108,000,000	消費収支差額の部合計	39,989,151,344
第3号基本金	39,607,500,000	負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計	135,172,517,548

融市場であったが、本学は資産運用の基本方針である「安全・確実」を貫き、予算を上回る運用益を得ることができた。また、収益事業においても前年並みの収益を一般会計に繰り入れることができた。

将来の教育研究基金を確保するための第3号基本金及

び施設・設備充実のための第2号基本金とも計画どおり組入れを実施した。

⑥コンプライアンスの確立

より一層のコンプライアンス徹底のため、2008年度は、諸規程の改正を行い、不正防止のための環境づくりに務めた。